

資 料

富山県のトンボ (2022年記録)

二橋 亮¹⁾, 二橋 弘之²⁾, 新堀 修³⁾,
不破 光大⁴⁾, 岩田 朋文⁵⁾

- 1) 産業技術総合研究所
305-8566 茨城県つくば市東1-1-1 産総研中央第6
- 2) 939-0234 富山県射水市二口2936
- 3) 939-2255 富山県富山市長附648-2
- 4) 魚津水族館 937-0857 富山県魚津市三ヶ1390
- 5) 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

**The Dragonflies and Damselflies
in Toyama Prefecture, Central Honshu,
Japan Based on the Records in 2022**

Ryo Futahashi¹⁾, Hiroyuki Futahashi²⁾,
Osamu Shimbori³⁾, Mitsuhiro Fuwa⁴⁾, and
Tomofumi Iwata⁵⁾

- 1) National Institute of Advanced Industrial Science
and Technology (AIST), Central 6, Tsukuba,
Ibaraki 305-8566, Japan
- 2) 2936, Futakuchi, Imizu-shi, Toyama 939-0234, Japan
- 3) 648-2, Nagatsuki, Toyama 939-2255, Japan
- 4) Uozu Aquarium, 1390, Sanga, Uozu, Toyama
937-0857, Japan
- 5) Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-
machi, Toyama 939-8084, Japan

Our collection and photograph data of dragonflies and damselflies from Toyama Prefecture in 2022 are reported. Seventy-Seven species from 12 families were found in 2022. *Coenagrion terue* was newly recorded from Toyama Prefecture in 2022. For each species, the present state of distribution is introduced. The following 13 species were not found in 2022 (the last collection year in parenthesis); *Anax ephippiger* (2019), *Anax guttatus* (2005), *Nihonogomphus viridis* (2006), *Sinogomphus flavolimbatus* (2021), *Shaogomphus postocularis* (1972), *Sympetrum fonscolombii* (2018), *Sympetrum danae* (2001), *Sympetrum depressiusculum* (2011), *Sympetrum striolatum* (2013), *Sympetrum vulgatum*

(2005), *Sympetrum cordulegaster* (2020), *Tramea virginia* (2020), and *Tholymis tillarga* (2007).

1. はじめに

著者らは、富山県のトンボ類を継続的に調査しており、2021年度までの記録を報告している(二橋ほか, 2004, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022; 二橋・二橋, 2005, 2006, 2007, 2009)。ここでは、2022年(調査日数: 二橋184日, 新堀169日)に得られた知見をふまえて、各種の県内における生息状況について解説する。学名と種の配列は、尾園ほか(2022)に従った。また、2004~2006年にかけての市町村合併前の旧市町村をカッコ付けで記し、以前の文献との比較のために生息状況は旧市町村単位で解説した。2022年の採集・撮影データの一覧は、補足データに掲載した(DOI: 10.6084/m9.figshare.22774016)。報告に先立ち、貴重なデータをご提供いただいた中田達哉, 志村幸光, 森田倫太郎, 二橋歴史, 不破壮真, 不破日向の各氏, 情報提供をいただいた中島智美氏(YKK株式会社), 中部山岳国立公園内での調査に際し、ご協力たまわった環境省中部山岳国立公園立山管理官事務所および林野庁富山森林管理署, 調査に同行いただいた二橋奈津子, 二橋直輝の各氏に御礼申し上げます。

2022年の調査では12科77種のトンボが確認された。この中で、オゼイトトンボは2022年に富山県から初めて報告された(中田ほか, 2022)。一方、県内で40年以上記録が途絶えているホンサナエ, 遠方からの飛来種であるヒメギンヤンマ, オオギンヤンマ, スナアカネ, タイリクアキアカネ, イソアカネ, オナガアカネ, ハネビロトンボ, アメイロトンボ, 生息地を未調査のムツアカネ, 県内での最近の記録が少ないアオサナエ, ヒメサナエ, タイリクアカネの13種は確認されなかった。

旧市町村単位の初記録は、富山市のミヤマカワトンボ, 朝日町のおゼイトトンボ, 黒部市のネアコシヤンマ, 初見日の更新は、オオアオイトトンボ(5月28日), キイトトンボ(5月4日), クロイトトンボ(4月17日), オオイトトンボ(4月20日), アオモンイトトンボ(3月11日), アジアイトトンボ(3月10日), モノサシトンボ(5月11日), ギンヤンマ(3月30日), ヒメクロサナエ(4月19日), ムカシヤンマ(4月23日), ハネビロエゾトンボ(7月26日), アキアカネ(5月11日), シオカラトンボ(4月17日), オオシオカラトンボ(5月6日)の14種であった。富山県における市町村別(旧市町村区分)記録表と成虫の発生消長を表1および表2に示した。

2. 富山県における生息状況および2022年の知見

アオイトトンボ科 *Lestidae* Calvert, 1901

(1) オツネイトンボ *Sympetma paedisca* (Brauer, 1877)

海岸沿いの湿地を中心に県内8市町から記録がある。2022年は射水市(新湊市)海竜町でのみ確認された。

(2) ホソミオツネイトンボ *Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)

平地から山地の湿地や池沼, 河川敷, 水田に生息し, 県内では魚津市以西の27市町村から記録されている。2022年は7市町で確認された。

(3) アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann, 1823)

平地から山地の湿地や池沼に生息し, 県内で32市町村から記録されている。2022年は7市町で確認された。

(4) オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883

平地から山地の周囲に樹林のある湿地や池沼, 水田に生息する。県内34市町村から記録されている。2022年は6市町で確認された。

カワトンボ科 *Calopterygidae* Selys, 1850

(5) ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, 1869

県内では黒部市以西の丘陵地の河川を中心に27市町村から記録されている。2022年は12市町で確認された。県内では基本的に橙色翅のみが出現するが, まれに無色翅や淡橙色翅が記録される。上市町野島では, 秋に羽化する個体が2022年にも複数確認された(図1, 2)。

(6) アサヒナカワトンボ *Mnais pruinosa* Selys, 1853

丘陵地から山地の河川に広く生息し, 県内で31市町村から記録されている。2022年は13市町で確認された。県内では基本的に無色翅のみが出現するが, まれに橙色翅が記録される。

(7) ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* Selys, 1853

低山地の河川に広く生息し, 県内30市町村から記録されている。2022年は12市町で確認され, 富山市(旧市町村区分)から初めて記録された。

(8) ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata* Selys, 1853

平地から低山地の河川に広く生息し, 県内34市町村から記録されている。2022年は14市町で確認された。

モノサシトンボ科 *Platynemididae* Tillyard et Fraser, 1938

(9) モノサシトンボ *Pseudocoptera annulata* (Selys, 1863)

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し, 県内29市町村から記録されている。2022年は12市町村で確認された。

イトトンボ科 *Coenagrionidae* Kirby, 1890

(10) キイトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys, 1876

平地から山地の湿地や池沼に広く生息し, 県内34市町村から記録されている。2022年は14市町村で確認された。富山市(婦中町)上轡田では5月4日に成熟個体が確認されたが, これは全国的にみても非常に早い記録である(二橋, 2014)。

(11) エゾイトトンボ *Coenagrion lanceolatum* (Selys, 1872)

丘陵地から山地の池沼に生息し, 県内30市町村から記録されている。2022年は7市町村で確認された。

(12) オゼイトトンボ *Coenagrion terue* (Asahina, 1949)

丘陵地の湿地に生息し, 県内では2022年に朝日町の3ヶ所から初めて報告された(中田ほか, 2022)(図3, 4)。

(13) クロイトトンボ *Paracercion calamorum* (Ris, 1916)

平地から丘陵地の池沼に生息し, 県内34市町村から記録されている。2022年は15市町村で確認された。

(14) セスジイトトンボ *Paracercion hieroglyphicum*

(Brauer, 1865)

平地から丘陵地の用水路や池沼に生息し, 県内では19市町村から記録されている。2022年は5市町村で確認され, 氷見市から32年ぶりに確認された。射水市(新湊市)海竜町では本種♂とムスジイトトンボ♀の異種間連結が確認された(図5)。また, 氷見市十二町では複眼がムスジイトトンボのように青色になる個体が1♂撮影された。

(15) オオイトトンボ *Paracercion sieboldii* (Selys, 1876)

平地から丘陵地の湿地や池沼に生息し, 県内30市町村で記録されている。2022年は10市町村で確認された。

(16) ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

海岸沿いの池沼を中心に県内7市町で記録があり, 2022年は3市で確認された。黒部市から22年ぶりに確認され, 黒部市吉田のYKKセンターパーク敷地内では産卵が確認された。後頭条の存在する個体が雌雄ともに確認され(図6), ♂の眼後紋の消失した個体(図7)や♀の肩黒条が消失傾向の個体(図8)も確認された。

(17) モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

平地から丘陵地の湿地や水田に生息し、県内では24市町村から記録されている。2022年は8市町で確認され、入善町から36年ぶりに確認された。

(18) アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*

(Rambur, 1842)

海岸沿いの池沼や河川敷を中心に県内20市町村から記録がある。2022年は6市町で確認された。射水市（新湊市）海竜町では3月11日に羽化が確認されたが（図9）、これは南西諸島を除き本種の初見記録と思われる（二橋, 2014）。

(19) アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* (Brauer, 1865)

平地から山地の池沼や湿地、河川敷に広く生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は14市町で確認された。射水市（新湊市）海竜町では、3月10日に羽化が確認されたが、これは2021年の3月15日の記録（二橋・二橋, 2022）を更新して、成虫越冬種を除く県内でのトンボの初見記録である（図10）。

ムカシトンボ科 *Epiophlebiidae* Muttkowski, 1910**(20) ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)**

丘陵地から山地の溪流に生息し、県内18市町村から記録されている。2022年は上市町でのみ確認された。

ヤンマ科 *Aeshnidae* Rambur, 1842**(21) サラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)**

丘陵地の湿地に主に生息し、県内では29市町村から記録されている。2022年は4市町で確認された。

(22) コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (Selys, 1883)

丘陵地の周囲に樹林のある河川に主に生息し、県内24市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。2022年は7市町村で確認された。

(23) ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (Selys, 1883)

丘陵地から山地の河川に生息し、県内31市町村から記録されている。2022年は4市町で確認された。

(24) アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内24市町村から記録されている。2022年は5市町で確認された。

(25) ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内9市町から記

録されている。2022年は氷見市と黒部市で確認された。黒部市では初記録である。

(26) カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Bartenev, 1910

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内から確実な記録があるのは7市町であるが、最近では八尾町と大沢野町の一部で確認されているのみである。

(27) マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys, 1897)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内32市町村から記録されている。2022年は3町で確認された。

(28) ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys, 1883)

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や湿地、河川敷に生息し、県内32市町村から記録されている。2022年は4市町村で確認された。

(29) マダラヤンマ *Aeshna mixta* Latreille, 1805

海岸沿いの池沼や河川敷を中心に県内15市町村から記録がある。2022年は氷見市でのみ確認された。

(30) オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* Hagen, 1856

丘陵地から山地の池沼に主に生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は7市町で確認された。

(31) ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* (Linnaeus, 1758)

丘陵地から山地の池沼や湿地に生息し、県内31市町村で記録されている。2022年は3町村で確認された。

(32) ヒメギンヤンマ *Anax ephippiger* (Burmeister, 1839)

遠方からの飛来種で、県内では2019年に射水市（新湊市）海竜町で1♂が採集されたのみである。

(33) ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys, 1839)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は13市町村で確認された。2022年は3月30日に射水市（新湊市）海竜町では羽化個体が撮影され（図11）、4月上旬にも羽化殻が複数確認された。また、終見記録よりも遅い11月15日にも1♂が目撃された。

(34) クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* Oguma, 1915

平地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内34市町村から記録されている。2022年は8市町で確認された。

(35) オオギンヤンマ *Anax guttatus* (Burmeister, 1839)
 遠方からの飛来種で、県内28市町村から記録されているが、1998年以外の確認例は少なく2022年には未確認である。

サナエトンボ科 Gomphidae Rambur, 1842

(36) ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus* (Fabricius, 1775)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内19市町から記録されている。2022年は5市町で確認された。

(37) コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886

丘陵地から山地の河川に生息し、県内31市町村から記録されている。2022年は13市町村で確認された。

(38) オナガサナエ *Melligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

丘陵地の河川を中心に生息し、県内15市町村から記録されている。2022年は10市町で確認された。県内では2016年の再発見以降、記録が相次いでいる。

(39) アオサナエ *Nihonogomphus viridis* Oguma, 1926

県内では小矢部市と高岡市（福岡町）で確認されていたが、2006年を最後に記録が途絶えている。

(40) クロサナエ *Davidius fujiama* Fraser, 1936

丘陵地から山地の河川に生息し、県内25市町村から記録されている。2022年は2市町で確認された。

(41) ダビドサナエ *Davidius nanus* (Selys, 1869)

丘陵地から低山地の河川に生息し、県内26市町村で記録されている。2022年は7市町で確認された。胸部の黒条が一部消失した個体が時々確認される（図12）。

(42) モイワサナエ（ヒラサナエ） *Davidius moiwanus* (Okumura, 1935)

県西部の丘陵地の小河川から局所的に確認されており、5市町から記録されている。2022年は2市町で確認された。胸部の黒条が発達したフタスジ型の個体が時々確認される。

(43) ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus* (Fraser, 1936)

県内の丘陵地から山地の河川源流域に生息し、25市町村から記録されている。2022年は大沢野町で確認された。

(44) ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus* (Oguma, 1926)

県内では富山市（大沢野町）須原周辺で少数個体が記録されているのみで、2022年には未確認である。

(45) オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* (Oguma, 1926)

県内では丘陵地の小河川に生息し、7市町村から記録されている。2022年は3町で確認された。

(46) コサナエ *Trigomphus melampus* (Selys, 1869)

県内の丘陵地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、27市町村から記録されている。2022年は11市町で確認された。

(47) ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)

県内の平地から山地の河川に生息し、28市町村から記録されている。2022年は7市町で確認された。未成熟成虫は山頂付近で確認されることがあり、2022年に立山町室堂平（標高約2,450 m）でも1♂確認された。黒部市吉田のYKKセンターパーク敷地内からも今回初めて確認された。

(48) ホンサナエ *Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

県内では高岡市、富山市、婦中町、大沢野町、上市町の5市町から記録されているが、1972年を最後に確認されていない。

(49) キイロサナエ *Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

県内では氷見市、福光町、大門町、小杉町、婦中町の5市町から記録されているが、現在の確実な発生地は小杉町の一部のみである。

(50) ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (Selys, 1854)

県内の丘陵地の河川を中心に生息し、23市町村から記録されている。2022年は8市町で確認された。

ムカシヤンマ科 Petaluridae Needham, 1901

(51) ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889)

丘陵地から山地の周囲に樹林のある湿地や水の滲みだす斜面に生息し、県内29市町村から記録されている。2022年は4市町で確認された。

オニヤンマ科 Cordulegastridae Banks, 1892

(52) オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys, 1854)

平地から山地の細流に広く生息し、県内全35市町村で記録されている。2022年は9市町村で確認された。

エゾトンボ科 Corduliidae Selys, 1871

(53) カラカネトンボ *Cordulia amurensis* Selys, 1887

山地の池沼に生息し、県内6町村から記録されている。2022年は平村で確認されたほか、福光町からも目撃記録が報告された（宮畑, 2022）。

(54) **トラフトンボ** *Epitheca marginata* (Selys, 1883)

丘陵地の池沼に主に生息し、県内22市町村から記録されている。2022年は6市町で確認された。

(55) **タカネトンボ** *Somatochlora uchidai* Forster, 1909

丘陵地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内32市町村から記録されている。2022年は3市町で確認された。

(56) **エゾトンボ** *Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858)

丘陵地から山地の周囲に樹林のある湿地に主に生息し、県内27市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。2022年は2市町で確認された。

(57) **ハネピロエゾトンボ** *Somatochlora clavata* Oguma, 1913

丘陵地から山地の周囲に樹林のある細流に生息し、県内7市町から記録されているが、産地は非常に限られる。2022年は立山町で確認され、7月下旬に産卵が撮影された(図13)。

ヤマトンボ科 Macromiidae Tillyard, 1917(58) **オオヤマトンボ** *Epophthalmia elegans* (Brauer, 1865)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内32市町村から記録されている。2022年は5市町で確認され、初見記録よりも早い5月7日に羽化殻が確認された。

(59) **コヤマトンボ** *Macromia amphigena* Selys, 1871

平地から低山地の河川や池沼に生息し、県内32市町村から記録されている。2022年は9市町村で確認された。

トンボ科 Libellulidae Selys, 1840(60) **チョウトンボ** *Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883

平地から低山地の池沼に生息し、県内26市町村から記録されている。2022年は8市町村で確認された。

(61) **カオジロトンボ** *Leucorrhinia dubia* (Vander Linden, 1825)

高層湿原に生息し、県内では利賀村、八尾町、大山町、立山町、宇奈月町の5町村から記録されている。2022年は立山町で確認された。

(62) **スナアカネ** *Sympetrum fonscolombii* (Selys, 1840)

大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内9市町から記録されているが2022年には未確認である。

(63) **ナツアカネ** *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)

平地から低山地の水田や湿地、池沼に生息し、県内全35市町村から記録されているが、2000年代以降、個体数が減少している。2022年は4市町で確認され、立山町室堂平(標高約2,450 m)でも1♀確認された。

(64) **リスアカネ** *Sympetrum risi* Bartenev, 1914

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は4市町で確認された。胸部の黒条が発達して斑紋がコノシメトンボに似る個体が時々確認される(図14)。

(65) **ノシメトンボ** *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)

平地から山地の水田や池沼、湿地に生息し、県内全35市町村から記録されているが、2000年代以降、個体数が減少している。2022年は10市町で確認された。

(66) **ムツアカネ** *Sympetrum danae* (Sulzer, 1776)

県内では2001年に富山市(大山町)高天原周辺に生息することが確認されたが、その後は報告されていない。

(67) **アキアカネ** *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)

平地から低山地の水田や湿地、池沼に生息し、県内全35市町村から記録されている。2022年は21市町村で確認された。射水市(小杉町)上野では例年よりも3週間以上早い5月11日に未成熟個体が撮影された(図15)。

(68) **タイリクアキアカネ** *Sympetrum depressiusculum* (Selys, 1841)

大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内25市町から記録されているが、北陸地方では最近の記録が少なく、県内では2011年を最後に確認されていない。

(69) **タイリクアカネ** *Sympetrum striolatum* (Charpentier, 1840)

県内では氷見市、高岡市、新湊市の3市の海岸沿いの湿地から記録されているが、2013年を最後に確認されておらず、石川県能登地方でも記録が途絶えている。

(70) **イソアカネ(マンシュウアカネ)** *Sympetrum vulgatum* (Linnaeus, 1758)

大陸からの飛来種で、氷見市、高岡市、新湊市、朝日町の4市町の海岸沿いの湿地から記録されているが、2005年を最後に確認されていない。

(71) コノシメトンボ *Sympetrum baccha* (Selys, 1884)

平地から山地の水田や池沼に生息し、県内30市町村から記録されている。2022年は6市町で確認された。

(72) ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* (Bartenev, 1913)

平地から山地の周囲に樹林のある湿地に生息し、県内28市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。2022年は4町村で確認された。

(73) マユタテアカネ *Sympetrum eroticum* (Selys, 1883)

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し、県内全35市町村から記録されている。2022年は11市町で確認された。

(74) マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* (Selys, 1884)

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内18市町村で記録されている。2022年は4市町で確認された。射水市（新湊市）海王町では赤化型♀が確認された。

(75) ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* (Müller in Allioni, 1766)

平地から山地の水田や細流、河川敷に生息し、県内29市町村から記録されている。2022年は11市町で確認された。

(76) オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster* (Selys, 1883)

大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内19市町村から記録されている。北陸地方では近年の確認例が少なく、2022年には未確認である。

(77) ネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma, 1915

平地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内34市町村から記録されている。2022年は6市町で確認された。

(78) キトンボ *Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

平地から低山地の池沼に生息し、県内26市町村から記録されている。2022年は6市町で確認された。

(79) ハネピロトンボ *Tramea virginia* (Rambur, 1842)

南方からの飛来種で、県内8市町から記録されているが、2022年には未確認である。

(80) コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister, 1839)

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼に生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は11市町で確認された。

(81) コフキトンボ *Deiella phaon* (Selys, 1883)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内29市町村から記録されている。2022年は9市町村で確認された。

(82) アメイロトンボ *Tholymis tillarga* (Fabricius, 1798)

南方からの飛来種で、県内では2007年に氷見市宮田から記録されたのみである。

(83) ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

平地から山地の周囲に樹林のある湿地に生息し、県内29市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。2022年は5市町で確認された。

(84) ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* (Drury, 1773)

平地から山地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内全35市町村から記録されている。2022年は17市町村で確認された。富山市（婦中町）上瀬では翅と体表に褐色斑のある個体が確認された（図16）。

(85) ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius, 1798)

南方からの飛来種で、初夏から秋にかけては水田や湿地で一時的に発生する。県内全35市町村から記録されている。2022年は8市町村で確認された。

(86) ハラピロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys, 1878)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内31市町村から記録されている。2022年は16市町村で確認された。

(87) シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys, 1848)

平地から山地の池沼や湿地、水田、河川敷などに生息し、県内全35市町村から記録されている。2022年は17市町村で確認された。富山市（婦中町）上轡田では県内では記録の少ないみ型♀が1個体撮影された。

(88) シオヤトンボ *Orthetrum japonicum* (Uhler, 1858)

平地から山地の周囲に樹林のある湿地や水田などに生息し、県内31市町村から記録されている。2022年は16市町で確認された。

(89) オオシオカラトンボ *Orthetrum melania* (Selys, 1883)

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や湿地、河川敷などに生息し、県内全35市町村から記録されている。2022年は11市町村で確認され、富山市（大沢野町）長川原で例年よりも

およそ3週間早い5月6日に未成熟個体が確認された。

(90) ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* Linnaeus, 1758

平地から山地の池沼や湿地に生息し、県内33市町村から記録されている。2022年は7市町で確認された。

3. 引用文献

二橋弘之・二橋 亮, 2022. 富山県射水市で3月15日にアジアイトトンボを確認. *Aeschna*, (58): 90.

二橋 亮, 2014. 日本産トンボ類の成虫の出現期および初見・終見記録. *Aeschna*, (50): 145-181.

二橋 亮・二橋弘之, 2005. 富山県のトンボ (2004年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 97-107.

二橋 亮・二橋弘之, 2006. 富山県のトンボ (2005年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (29): 137-145.

二橋 亮・二橋弘之, 2007. 富山県のトンボ (2006年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 127-137.

二橋 亮・二橋弘之, 2009. 富山県のトンボ (2008年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (32): 143-154.

二橋 亮・二橋弘之・荒木克昌・根来 尚, 2004. 富山県のトンボ. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (17): 1-220.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2010. 富山県のトンボ (2009年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (33): 129-145.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2011. 富山県のトンボ (2010年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (34): 159-175.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2016. 富山県のトンボ (2015年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (40): 103-126.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2017. 富山県のトンボ (2016年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (41): 87-111.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・岩田朋文, 2018. 富山県のトンボ (2017年記録). 富山市科学博物館研究報告, (42): 83-101.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2012. 富山県のトンボ (2011年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (36): 27-53.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2013. 富山県のトンボ (2012年度記録). 富山市科学博物館研

究報告, (37): 127-147.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2014. 富山県のトンボ (2013年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (38): 143-163.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2015. 富山県のトンボ (2014年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (39): 105-124.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・不破光大・岩田朋文, 2021. 富山県のトンボ (2020年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (45): 85-105.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・不破光大・岩田朋文, 2022. 富山県のトンボ (2021年記録). 富山市科学博物館研究報告, (46): 97-107.

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・岩田朋文, 2019. 富山県のトンボ (2018年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (43): 87-99.

二橋 亮・二橋弘之・新堀修・中田達哉・岩田朋文, 2020. 富山県のトンボ (2019年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (44): 83-101.

二橋 亮・二橋弘之・和田茂樹, 2008. 富山県のトンボ (2007年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (31): 141-156.

宮畑年弘, 2022. 石川県内で2022年に確認した主なトンボの記録. とっくりばち, 90: 36-38.

中田達哉・澤田研太・新堀 修・二橋 亮, 2022. 富山県からオゼイトトンボを初記録. *Tombo*, 65: 75-77.

尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2022. ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂第2版. 532 pp., 文一総合出版.



図1：ニホンカワトンボ未成熟 上市町野島 2022.10.15
(二橋弘之 撮影).



図5：セスジイトトンボとムスジイトトンボ♀の連結 射水市(新湊市)海竜町 2022.7.18(新堀 修 撮影).



図2：ニホンカワトンボ未成熟 上市町野島 2022.10.28
(新堀 修 撮影).



図6：後頭条の発達したムスジイトトンボ 射水市(新湊市)海竜町 2022.6.25(新堀 修 撮影).



図3：オゼイトトンボ連結産卵 朝日町棚山 2022.6.12
(二橋 亮 撮影).

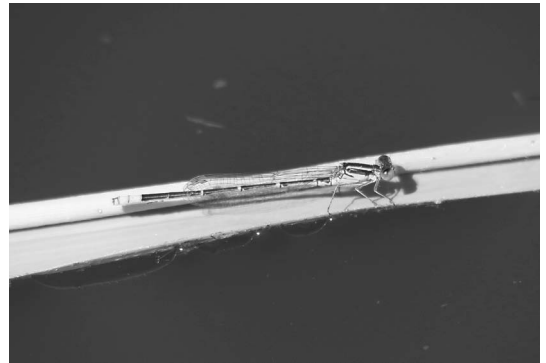


図7：眼後紋が消失したムスジイトトンボ 射水市(新湊市)海竜町 2022.10.2(新堀 修 撮影).



図4：オゼイトトンボ 朝日町山崎 2022.6.19
(新堀 修 撮影).



図8：肩黒条が一部消失したムスジイトトンボ♀ 射水市(新湊市)海竜町 2022.6.25(新堀 修 撮影).



図9：3月中旬に羽化するアオモンイトトンボ♀ 射水市(新湊市)海竜町 2022.3.11(新堀 修 撮影).



図13：ハネビロエゾトンボ♀産卵 立山町吉峰野開 2022.7.26(新堀 修 撮影).



図10：3月上旬に羽化するアジアイトトンボ♂ 射水市(新湊市)海竜町 2022.3.10(新堀 修 撮影).



図14：リスカカネ♂胸部黒条発達 富山市(大沢野町)岩木新 2022.8.2(新堀 修 撮影).



図11：3月下旬に羽化するギンヤンマ♀ 射水市(新湊市)海竜町 2022.3.30(新堀 修 撮影).



図15：アキアカネ♂未成熟 射水市(小杉町)上野 2022.5.11(新堀 修 撮影).



図12：ダビドサナエ♂胸部黒条一部消失 高岡市五十里 2022.5.10(新堀 修 撮影).



図16：ショウジョウトンボ♀体斑異常 富山市(婦中町)上瀬 2022.7.14(新堀 修 撮影).